



アジア州

資源開発と民主主義からみた西アジア —西アジアの経済と政治について知ろう—

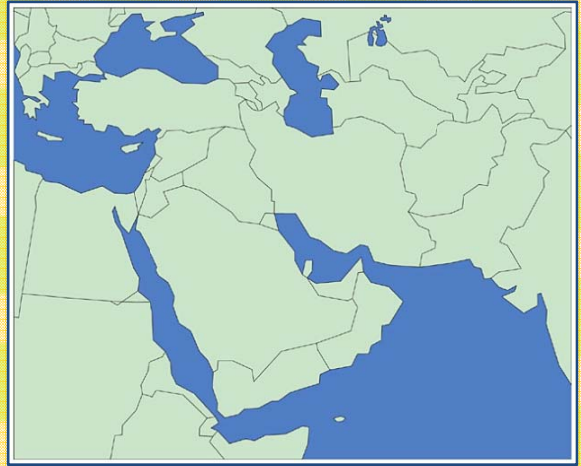
→ ねらい

「資源開発と民主主義」に関して、地域（西アジア）の具体的な事実を知る。

→ 学習課題

- 西アジアの人々は、どのような環境で生活しているのだろうか？
- 湾岸諸国の政治・経済には、どのような特色がみられるだろうか？

→ 学習の見取り図



▲西アジア



西アジアの自然と生活



▲砂漠の遊牧民ベドウィン

西アジアは、長い乾季と短い雨季をもつ乾燥気候が卓越しており、砂漠とステップが広がっています。人々は山麓のステップに地下水路などの灌漑施設を築いて、小麦やブドウを栽培したり、砂漠で遊牧をすることで暮らしを立ててきました。今日では石油の加工・輸出が、主たる産業となっています。

西アジアはイスラーム発祥の地です。サウジアラビアの聖地メッカには、世界から多くの巡礼者が訪れます。今日でも西アジアの人々の生活・習慣、社会のしくみには、イスラームの思想が深く浸透しています。



湾岸諸国の経済と政治



▲ビルが立ち並ぶリヤド市街と王族所有のキングダムセンター

1900年代のはじめ、ペルシャ湾沿岸のサウジアラビアやイラクで石油が発見されると、西アジアに向けられる世界の眼差しは変わりました。世界の石油埋蔵量の約2/3が眠るこの地域には、採掘の技術や販売ルートを握る欧米諸国が進出し、石油の利権を支配してきました。しかし、1960年代から産油国は自国資源に対する権利を主張して石油産業の国有化を進めます。その結果、産油国には巨額の収入がもたらされました。

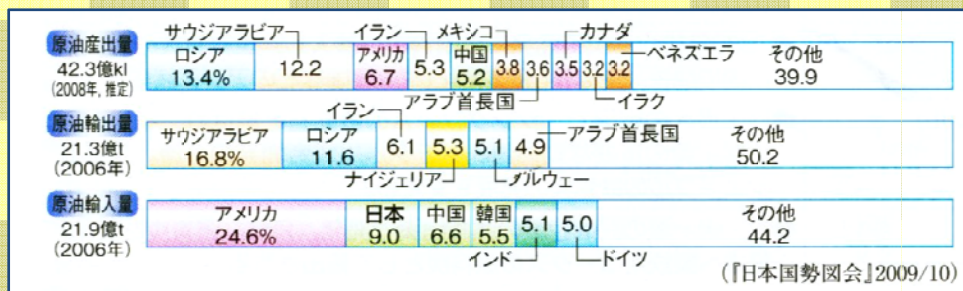
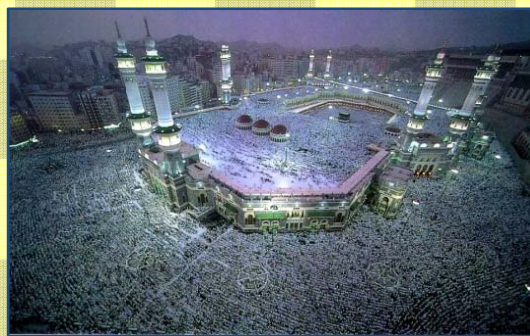
湾岸諸国には、国民の政治参加を認めない国が少なくありません。例えば、世界最大の石油輸出国のサウジアラビアは、王族が統治する君主制国家(王制)です。ここでは、王族が石油収入を独占するとともに、憲法や議会をつくらず、王族による統治を続けてきました。また、表現の自由や女性の権利なども制限されています。近年では、国民の政治参加を求める民主化の動きもみられます。



▼世界最大産油量のガワール油田(サウジアラビア)



▼イスラームの聖地メッカと巡礼者



▲世界の原油の生産と移動

原油 24.177万kl ('08年)	サウジアラビア 29.0%	アラブ首長国 24.3	イラン 11.6	その他 35.1	99.6%
---------------------------	------------------	----------------	-------------	-------------	-------

▲日本の原油の輸入先と輸入依存率



▲サウジアラビアのイスラームの女性

I

言葉の意味を調べる

1. 下の用語の意味を確かめなさい。
灌漑施設, イスラーム, 巡礼, 資源ナショナリズム, OPEC, 国際石油資本, 君主制国家, 王族, 表現の自由, 民主化

II

事実を比較・分類・概括する

2. 下の表を完成させて, 世界における湾岸諸国の位置づけと, 日本と湾岸諸国との関係を説明しよう。

国名	生産量(%)	輸出量(%)	日本の依存率(%)
サウジアラビア			
UAE			
イラン			

▼西アジアの政治体制(2005年)

君主制(赤) サウジアラビア, クウェート カタール, オマーン, ヨルダン アラブ首長国連邦(UAE)
個人支配(黄) イエメン, シリア
一党支配(橙) イラン
共和制(青) トルコ, レバノン, イスラエル (イラク)

3. 西アジアの政治体制を分類し, 白地図で色分けをするとともに, 全体的な傾向を述べなさい。

4. インターネットで調べて下の年表を完成させ, 石油から見た西アジアの動きをまとめよう。

1960年	国際石油資本に対抗して産油国が()を結成
1968年	アラブ産油国は()を結成
1973年	()戦争が発生。アラブの石油産出国による石油戦略のために, 先進工業国で()が起こる

III

私たちの生活と結びつける

5. 石油は, ガソリンだけでなく, 私たちのくらしの至るところで使われています。私たちの身近にある石油製品を探してみよう。





アジア州

資源開発と民主主義からみた西アジア —西アジアの経済と政治を捉える概念をつくらう—

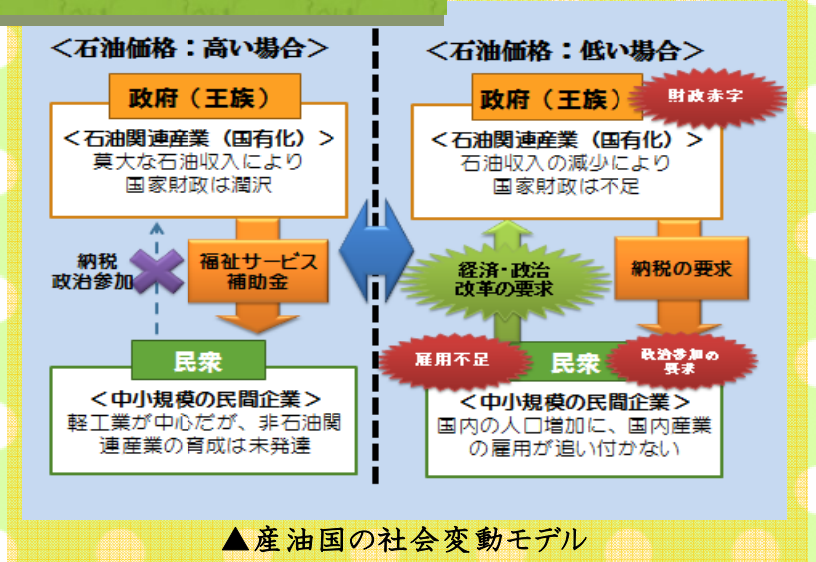
→ ねらい

「資源開発と民主主義」を説明する一般的な理論を知る。

→ 学習課題

なぜ産油国では、非民主的な国家が存続しうるのだろうか？ 変化の兆しはないのか？

→ 学習の見取り図

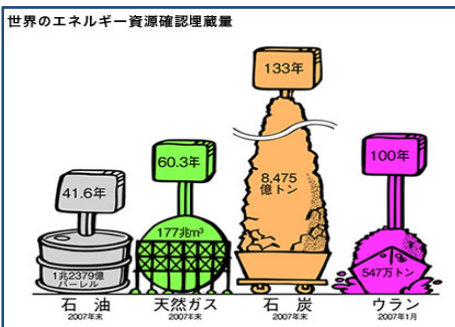


A 石油依存社会のしくみ

産油国の国民は、政治参加できないことに不満はないのだろうか？



B 石油依存社会の課題



▲エネルギー資源の可採年数

西アジアの湾岸諸国には、現在でも王族が支配する君主制（王制）の国家が多くあります。これらの国々では、石油資源を国家が独占して生産・輸出することで莫大な石油収入を得て財政を潤してきました。一方、国民には教育・医療などの福祉サービスを無償で提供し、産業にも補助金を投入して保護するなど、石油収入で得た富は国民に分配されてきました。もちろん、納税の義務もありません。

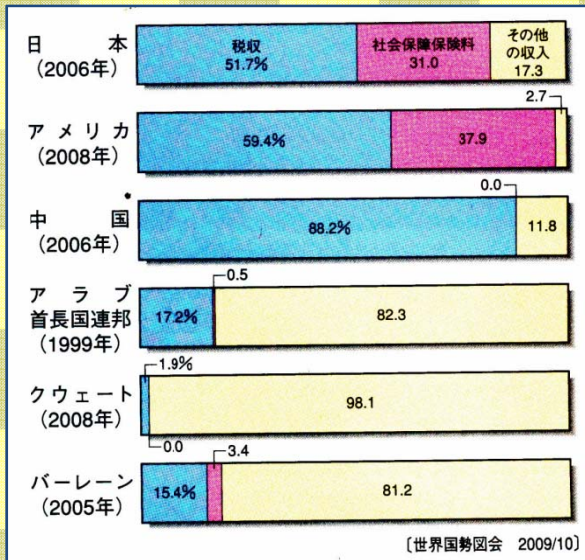
国民は課税されない代わりに、議会に代表を送って、税金の使い方を主張することはできません。また、現行の政治体制（君主制）の価値を訴えるためにも、国家は、長期的な見通しをもって産業を育てることよりも、当面の国民生活を満足させることを優先させる傾向にあります。

西アジアの湾岸諸国を支えている石油価格は、必ずしも安定していません。国際社会のさまざまな要因で、石油価格は高騰と暴落を繰り返してきました。石油価格が低下すると、おのずと国の財政は厳しくなり、福祉サービスの質を下げたり、課税を検討せざるを得ません。また福祉の充実した湾岸諸国では、急激に人口が増加してはいますが、国内産業が未発達なために、雇用の受け皿がありません。

これらの不満から、国民は“代表なくして課税なし”を盾に政治参加を求め、社会の改革を迫る動きも見られます。有限な天然資源＝石油に依存する社会は、その国のあり方をめぐって岐路に立っています。

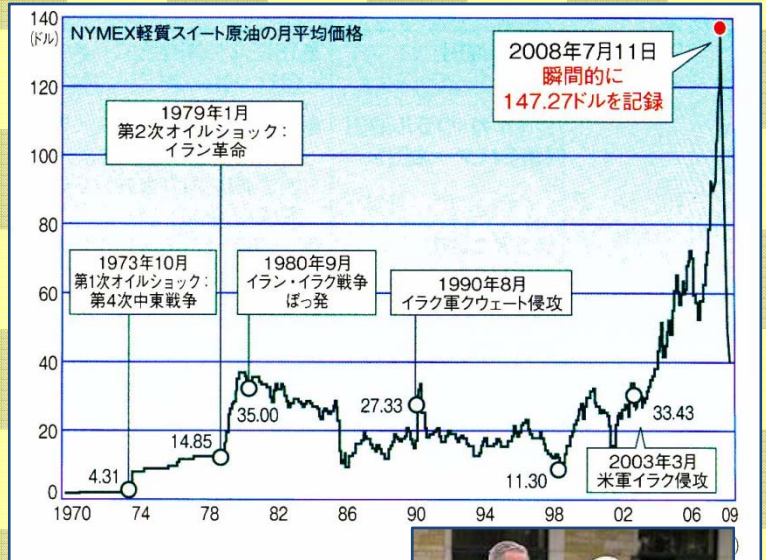


▼主な国の政府収入の内訳



西アジアの産油国における「その他の収入」は、何を意味するのだろうか

▼石油価格の推移



▶サウジアラビアのアブドラ国王とブッシュ前アメリカ大統領



I

言葉の意味を調べる

- 下の用語の意味を確かめなさい。
富の分配, 福祉サービス, 代表なくして課税なし, 石油産業, オイル・ショック

II

事実を説明する

- 表を完成させ、各国の国家収入の違いと、その理由を説明しなさい。

国名	1位	2位	3位
UAE	[] (%)	[] (%)	[] (%)
クウェート	[] (%)	[] (%)	[] (%)
日本	[] (%)	[] (%)	[] (%)

▼湾岸諸国の石油収入の変化

国名	1972	1980	1986	1998
クウェート	85	288	71	64
サウジアラビア	145	1,627	214	236
UAE	33	299	68	75

(単位: 億ドル)

- 「湾岸諸国の石油収入の変化」と「石油価格の推移」は、どういう関係にあるか。下のカードを完成させて説明しよう。

石油収入は()年がピーク。サウジアラビアの場合、1998年の石油収入は、1980年のそれの()程度にまで減少。

1980年代前半は、()のために石油価格が高騰していた。1990年代後半は、石油価格は低迷していた。

国家財政を石油収入に依存すると、()なメリットと、()なデメリットが予想される。

III

理論を応用する

- ナウル共和国の歴史を調べ、同国は①どのように繁栄し、②どのように苦悩してきたか、についてレポートにまとめよう。





アジア州

資源開発と民主主義からみた西アジア —概念を通して西アジアの課題を考えよう—

→ ねらい

一般的な理論を通して、「資源開発と民主主義」に関する地域(西アジア)の課題を知る

→ 学習課題

- ドバイはどのようにして石油依存経済から転換しようとしているか?
- なぜ湾岸諸国では経済改革や民主化の要求が高まっているのだろうか?

→ 学習の見取り図



▲ドバイの高級ホテル「ブルジュ・アル・アラブ」



A 脱石油化を目指すドバイ



▲ドバイのリゾート開発「パーム・ジュメイラ」



西アジアの国々を紹介するTV番組を見たんだけど、アラブ首長国連邦(UAE)のドバイは、テーマパークのように美しかった。砂漠じゃなかったの! どうしてこんな風になったのかな?

ドバイにも石油収入はありますが、それほど多くありません。だからこそ、石油収入に頼らない産業の育成を目指しています。例えば、大きな港を整備して、世界の貿易・物流の拠点になることを目指していますよ。



番組では、ドバイは高級ホテルやリゾートの開発も進めているって紹介されていたよ。ドバイは観光業にも力を入れているのね。



B 変革をめぐる揺れる湾岸諸国

▼湾岸諸国の人口構成(1997年)

国名	自国民	外国民	計
クウェート	74	141	212
サウジアラビア	1,350	600	1,950
UAE	66	204	270
湾岸諸国	1,708	1,067	2,770

(単位:万人)



番組を見ていたら、インド系や東南アジア系の人もたくさん出てきたわ。みんな観光で遊びに来ているのかな?

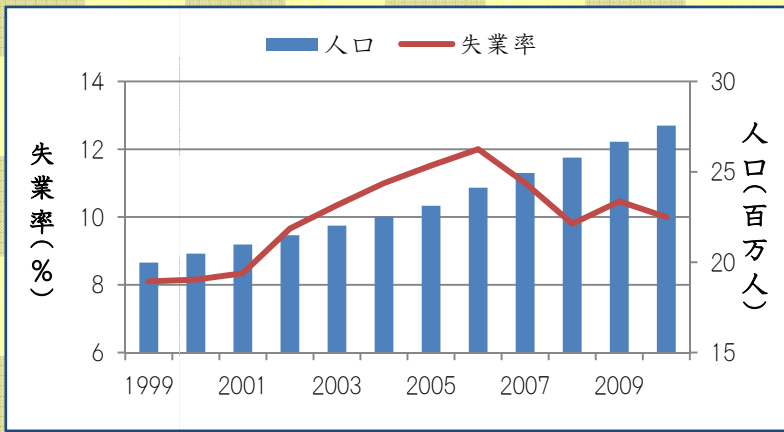
多くの人々は、働き口を求めてやってきた出稼ぎ労働者です。国内産業が石油産業に限られていると、働き口が足りず、失業者が増える可能性もありますね。



国民の不安や不満を訴える場はあるのかしら。議会が存在しない国では、どこに自分たちの思いをぶつけたらいいのだろう。



▼サウジアラビアの人口と失業率の変遷

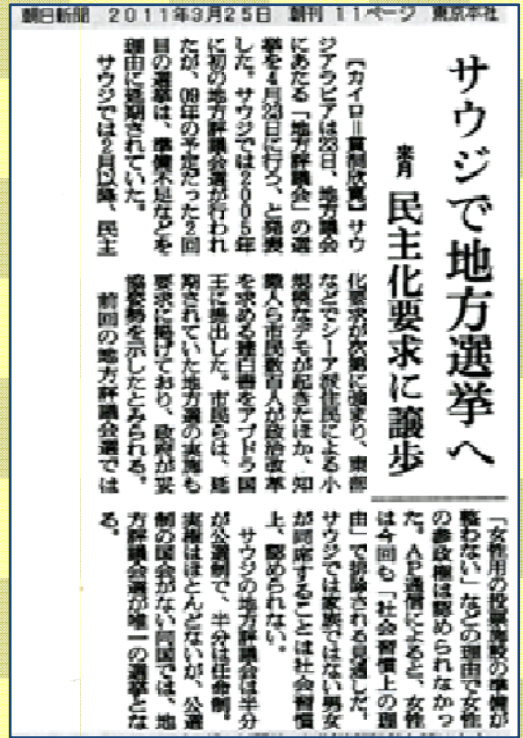


▼ドバイの国際港湾・ジュベル・アリ港



年	石油:非石油
1990	35:65
1995	18:82
2000	10:90

▲ドバイのGDPに占める石油と非石油産業の割合

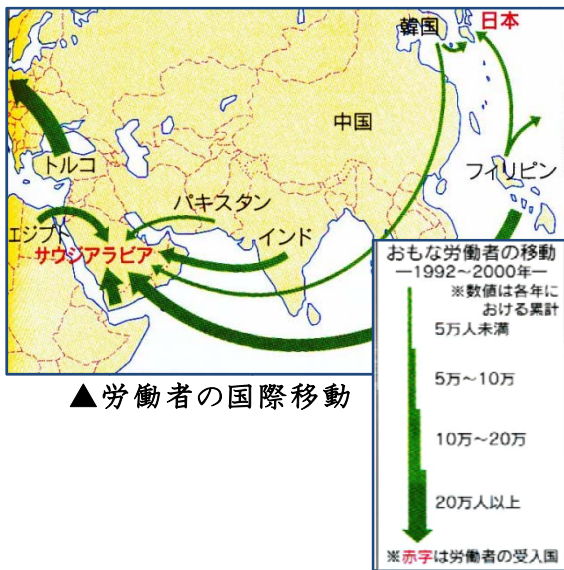


▲サウジアラビアの民主化の動き

I 言葉の意味を調べる

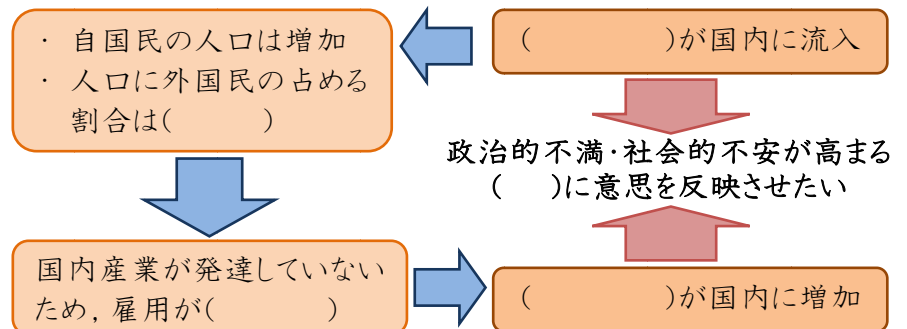
1. 地図に、下の地名の位置を書き込みなさい。
また、下の用語の意味を確かめなさい。
地名: アラブ首長国(UAE), ドバイ, アブダビ
用語: 出稼ぎ労働者, リゾート開発, フリーゾーン

II 原因・影響を推論する



首長国	人口(万人)	GDP(億ドル)	GDPに占める石油部門の割合
アブダビ	126.6	5,858.2	43.7%
ドバイ	95.2	2,287.7	12.2%

3. 下の図を完成させ、近年、サウジアラビアで国民の政治参加の要求が高まっている理由を説明しよう。



III 予想・判断を主張する

4. 10年後、サウジアラビアの政治参加はどの程度実現しているだろうか。根拠を示して予想を述べよう。

